

# 議会 報告会

## 各地域で開催します 市民と議会との懇談会

▶▶ 8月5日(水) 午後6時30分～8時 ◀◀

会場及び出席議員	
花巻市文化会館 第1・第2会議室	松田 昇、高橋 修、瀬川義光、若柳良明、小原雅道
花巻市交流会館 第2会議室	菅原ゆかり、内館 桂、本館憲一、近村晴男、鎌田幸也、
大迫総合支所 第1会議室	藤原 伸、藤井幸介、大原 健、伊藤源康、高橋 浩
石鳥谷生涯学習会館 シルバー憩の室 (旧中央公民館)	増子義久、藤井英子、照井明子、阿部一男、藤原晶幸
東和総合支所 第1会議室	照井省三、高橋 勤、櫻井 肇、平賀 守、中村初彦

議会の報告と市民の皆さまからご意見を伺うことを目的として「議会報告会～市民と議会との懇談会～」を市内5会場で開催します。  
どなたでもご参加いただけます。  
お気軽においでください。



【問い合わせ】 広報広聴特別委員会(電話24-2111内線310)



櫻井 肇 議員

### マイナンバー制度の進捗状況 システムの改修等準備進める

Q ①10月に個人に12桁、法人に13桁の生涯不変の番号が通知され、来年1月から運用が始まるが、制度導入への進捗状況を伺う。②番号付与による市民のメリット、デメリットについて伺う。③個人情報保護対策について伺う。④個人番号カードの交付を申請しないことは可能か伺う。

A 【市長】 ①住民基本台帳や市税などの基幹系システムの改修等に着手しており、引き続き、国が想定するスケジュールに対応できるように進めている。②番号付与のメリットとして国は、所得証明書や住民票の写しなど行政手続きの際に必要な添付書類の削減による「国民の利便性向上」や作業の削減等による「行政の効率化」及び適正な課税や不正受給の防止など「公平・公正な社会の実現」を挙げている。一方、デメリットとして情報漏えいや成り済まし等のリスクが懸念されていることから漏えいや目的外の収集等には重い罰則を科する内容となっている。③市は職員研修を実施するほか、セキュリティ強化など特定個人情報の保護対策に取り組む。④個人番号カードは交付を申請した方のみ交付される。

### 訪問・通所介護は

Q 平成29年度から要支援者に介護保険の給付対象外となるがその人数はどれくらいか。

A 【市長】 平成29年度に保険給付から総合支援事業に移行する訪問介護と通所介護を利用している要支援者数は平成27年3月現在で訪問介護が217名、通所介護が632名、訪問・通所介護併用が87名となっている。【その他の質問】 難聴者向け磁気ループについて



現状維持が望まれる訪問介護・通所介護



照井 明子 議員

### 発電に必要な燃料材確保は 県内事業者で年間必要量確保

Q 市が誘致し参入を計画する木質バイオマス発電事業に1千万円の出資金が予定されている。県内にはほかにも大規模発電事業所や合板工場などがあり、木材確保が危惧される。木材供給の見直しを伺う。

A 【市長】 今回の計画を進めるに当たり木材供給が最も大きな課題の1つであると認識している。事業者において県内の木材生産者等を対象に燃料材の調達可能性を独自に調査した結果約7万トンから、8万トンの安定的な確保が可能と判断され、導入予定の発電ボイラーの熱効率性能を分析、検討し、発電量を決定したと伺っている。



バイオマス発電事業所の建設予定地(大畑)

Q ジュールについて伺う。

A 【市長】 この制度は、空き家の所有者が、あらかじめ市に登録した物件登録取扱業者を選択し、所在地や間取り等の空き家情報を空き家バンクに登録して市のホームページに掲載し、空き家を買いたい人、借りたい人を募る仕組みである。利用者が金額や立地などの条件を検討できるように、8月中旬に市のホームページに掲載する予定である。

### 市の空き家対策は

Q 今後取り組まれる予定の空き家バンク制度の内容とスケ

A 木材供給の見直しは、花巻市森林組合、ノースジャパン素材流通協同組合などの県内事業者と「発電燃料供給協定書」を締結し、年内に必要な数量の確保を図られると伺っている。そのうち、花巻市森林組合の年間供給量は約1万トンとなっている。

### 友好都市平塚市 平成27年度親善訪問

7月3日から4日までの二日間、小原雅道議長以下12名の議員で神奈川県平塚市を親善訪問し、防災体制と6次産業化について研修を行いました。平塚市とは、昭和57年に「市民休養の郷」として提携、昭和59年、花巻市市制30周年を機に友好都市提携し、平成18年合併後の新花巻市においても友好都市の交流のほか、議員交流も継続しています。

7月3日は、昨年建設された新庁舎の防災対策本部室において、平塚市議会議長の歓迎を受けた後、災害対策課職員から防災体制について説明を受けました。災害時に警戒本部として使用される100インチのメインモニターとサブモニター4機が設置されており、民間委託により運用されている「平塚防災気象ウエブ」によって、気象、水位、雨量等の詳細な情報が得られるほか、市内14カ所の主要な橋に設置されたライブカメラの映像により状況確認ができる体制となっておりました。被災状況等をリアルタイムに映像で確認できることは、早期の対応につながるため、当市においても定点カメラや防災ヘリから映像の提供を受ける体制等を含めて、今後充実していくことが必要であると感じました。



平塚市の防災体制について説明を受ける(平塚市役所)

7月4日は、6次産業化推進のため、平塚漁協が中心となって運営している「平塚漁港の食堂」について漁協組合長から説明を受けました。その日のうちに水揚げされた新鮮な地魚を提供することで観光客を呼び込んでおり、開店前から行列ができるほどの人気でした。首都圏から近く湘南という知名度をもつ好条件もあつて集客効果が高いと思いますが、6次産業化の推進により、その地域の若者や女性の雇用にも結び付いており、成功事例として参考になることが多くありました。なお、訪問時には日本三大七夕まつりに数えられている「湘南ひらつか七夕まつり」が開催中であり、夜に見学しながら花巻市の七夕飾りを見つけ、友好交流の継続を議員間で再確認しました。

市政「ここが聞きたい」  
いっぱい質問